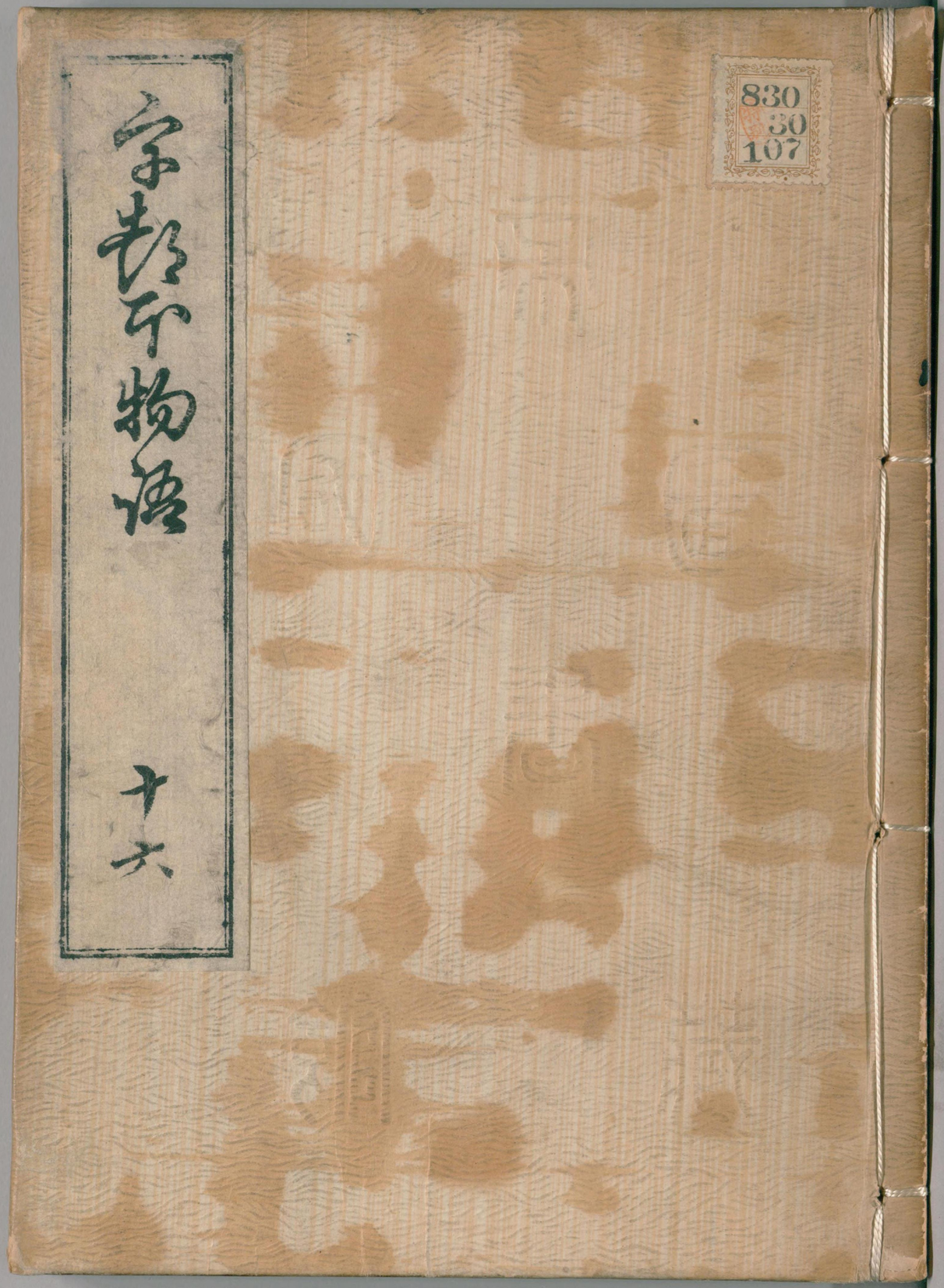
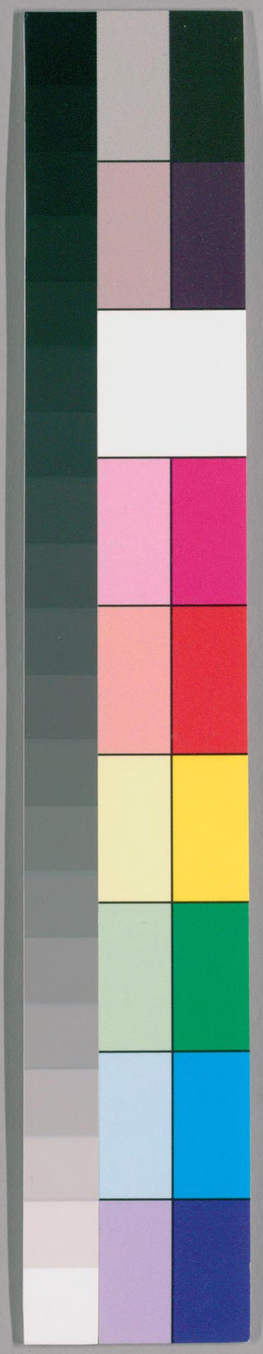




国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

4-270

830
107

宇津保物語

帝ひら記上の一
十二、

今校本一の巻ノ一

古本十二の巻

28.8.2

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

ロゼストテミノセントラミエ
ナリセンズトクラタテ
セストイールヤ

検非違使也
仲忠

大正
4. 7. 20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ロ五十六 種猿親王家ニアリシヒツミ錄サンヲサメテ妻ノヤツエノカニカリテ

くらあり。中納言（ちうなごん）よりはじめ（せイ）てこれ（こゝ）をみるに、いとめでたくはこ（こ）のほかもなきものゝさまなりてみるに、めでたくおもしろくなるまゝに、ふたをとりてみるに、ものもなくいろみえ（ヨ）ず。上（ヨ）錠（ヂヤウ）こ（コ）をとりけて、封（ふう）をひらきてみるに、そのゆへんのしなじなこまかに、こと（ごと）ごとくかきつけ（ケ）たり。中納言（ちうなごん）みるまゝに、名（な）文字（もじ）（ヨドイ）もかきたるやうにて、これいかなるこ（コ）とぞ（ヨ）やらんとおもひ（ヒ）てみるに、ものもなくいろ（イロ）みえ（ヨ）ず。首（かうべ）をかたぶけ（ケ）てこれ（コレ）をみるに、琴（きん）（キン）のしなじなをかきたるなり。これ（コレ）をみるに、そのゆへんのしなじなこまかに、こと（ごと）ごとくかきつけ（ケ）たり。中納言（ちうなごん）みるまゝに、名（な）文字（もじ）（ヨドイ）もかきたるやうにて、これいかなるこ（コ）とぞ（ヨ）やらんとおもひ（ヒ）てみるに、ものもなくいろ（イロ）みえ（ヨ）ず。首（かうべ）をかたぶけ（ケ）てこれ（コレ）をみるに、琴（きん）（キン）のしなじなをかきたるなり。これ（コレ）をみるに、

女ハヤウ取テ姫ヲ初メ女ドモヲヒキ取ルトテアリシ事ノアラマシ

を、一まのものをみるに、それ（コレ）にもおとらぬものなりとぞ（ヨ）おもひ（ヒ）ける。これのなりをもちて、ものをおもひ（ヒ）てみるに、これ（コレ）ほどのものをおもひ（ヒ）てこれ（コレ）をいだ（イ）すべきやうもなし。琴（きん）（キン）をとりて、姫（ひめ）君（きみ）のまへ（ヘ）にさしおきたまふ。姫（ひめ）君（きみ）、これ（コレ）をとりて、這（ヨ）ひ（ヒ）よりてみたまふに、いとおもしろくみえ（ヨ）たまふ。ものもなくいろ（イロ）みえ（ヨ）ず。首（かうべ）をかたぶけ（ケ）てこれ（コレ）をみるに、琴（きん）（キン）のしなじなをかきたるなり。これ（コレ）をみるに、

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

そのことをえずもちえ
ゐて そのこゝニ
のそうろう「一ヲよい
ふく 朝くいつて つつ
もてそれもあるつゝ

廿年ヨとせあまりみそとせ
とゐるひ。くわろのくなる。それゆへ
こをりうまつりよまつりの
あんあるまゝ。その子期ことをえまし
てのちよそれこそりのまし
給ひてこそうつよつそりてを
をめ一人なるひりうまつりく
くいまそうつ時。よそ
うくこゝろの依ひそこるもし
をこうくんいみなをもあをこ
なりのいなくるりれいるこ

ほうそれうらの人いめぐる
そのひとを見。ほぎ時よな
ぎ給ひて人のよのつくあるまうり天皇みかど
こゝやとれのつろ。
くぐそうりてことを
そうあるまうりを給ひ。
のみひとを見つれ給ひ。
うこれ殿いうくんいこ
そそ。たゝ一二年おうくなり
まうそのまれもまうり
これそそうい抱ともの

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

きぬくばりして。このうしやうに物みせとらやう
とせさせ給ふく。うぢうけ給はりかく色さえぞうり
ぬしつく。くるまをあけさせ給ふ。まうみおもすそこに
二三日ばかりくれ人をひきゐて。よろへくつ海みちく
あけさせけれとも。よぬ給へつかをさせ給ふ。さうく
よあくへくもあらて。こうそさぬのもあけにいく
の人しもとつる海。三日といふひあつて。御さやうぞく
かうし給ふく。あくるれうよゝ給やう。うけらまハ
書は。これかうきむしまれいつまゝやうおなりり。これ
寄人とされいはあり。これふなうちてそされち
くハ。これのらみしそ給れとこ重女なりこれろく

ぜんそれいまいのしうせ給へと。いのり給ひされとあら
ぞ。人のよゝやう。天下いつかいひかもこれあけ見るわ
給へきみをもあらせて。よう大銭ともおほを給はんとや
せば。いうなれいえあけねぞともむおやしきかは
うなしくうちにいひくらくはのうちてみ給へと。
いとゝ給へしきよう上なりのきくろうしてみ給ふ。
あらね。おもれいけふせむぞれ御さいの銭をまら給
すりそりゝ御戸して。人をめしておとさら物てみ給
へいかよいほひとへあけしてうちのま。それとゆは
み蔵やどもてそうり。それいうち御して文と
おもきた給へいてなかれよおきね。み給へは。かくともうち

なかいこたすこむはつくみそくの
ねひつくくみるはをみつくあるら
るうひつのくらひたすもろうう
のうたれそのそらうてをくまう
きうのほそこらふりくろく
をうたうをとり給ぐむ三条よかう
てあくの殿れんさてうりひ
てみれそのなるをたうやうりく
ろくみ給へいとみくあるをれたう
のあうり。そもいさくみをいた。すうらうよ
たれんのみらうけうみるうれ

をうおみれひやうしふこんさ
ふこうねむんのまりのう。いとうう
そくそれそあるねくしやひ
のまれいまてくむしてこそ
とうらくのめく給けっんなる
やうこそあうけめられをう
うみうい世う給まう。いまでい
みうの給くをるりうのもうみくの
うりりへくそまいひうりつくあっ
よみなの給あつけてほうう
二三百人のまうてそのうれ

のうらひは・ひとりよう(ヨナシ)香
てさせたてまつるそのころ(ころのころ)方よ(も)り
これはそうれうともいよ
とりえ(やえ)あるいとりをえ
それめでたりよ。くさ(ふ)みなうち(ふ)
てみな家(女)つくりてこころも(ひ)
しき女(妃)のあるいはこころもよ
いとめでたまふ。姫(ひこ)君(ぎみ)
和(やまと)うたこと(ふ)様(ざま)・筆(ふで)もちゐ(ひ)
もはかなうて(ひ)ごとをのみ(ひ)
二条(でう)のおほ(ほ)ぢ(ぢ)うちつづきうつ
ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この
ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この
ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この

それを中納言(ごん)ゐてたてまつりてこの御(おほん)
のうきを(ふ)聞(き)こえ(ゆ)給(たま)ふ。いとあはれ
なり。これをおぼ(ほ)しおこせ(せ)よ(と)
うちむくこと(ふ)。あるべきにもあらず
千
みこと(ふ)りもよ(と)ころ(ろ)ぐるしくなりぬ
くさぐさ(ふ)ぐるしくなりぬ
れいのいとをかしきみ(ひ)
のせ(ひ)ちの給(たま)へ。中納言(ごん)をぶつ(ふ)りうく
おろかなりとて。ほうそくなりとて女(をむな)
うちそへ(ひ)給(たま)ふ。ハヨ(ヨハ今ウイ)
く。おいうさはひ(ひ)ものをむ(ひ)

ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この
ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この
ふみ(ふ)ども(も)やうあ
るいとうて(ひ)たまふ。この

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

うくれ
まろうど

うのむ月ぞうちくる。一のそうみ給ぬ中納言
のうちそおさんそうそうのとしもえうおく
おとゝく。女みこおくもこそありてむ
まうでおうちうく。ふようくなうとゝくるのとに。
まいりそねりものを。そのいりぬ
里こものいうまいりさをほうく
とりふうちうみそ。それをふ
給。うくてそのうちうさうちうり給そ。うれゝ文
ともをみつゝ。うちのおぐ
ぞよ。こうみ給へさでうくる
うえようさうち給。一のそみこ

うくうちうめうをまうて給
みう女ゐの云十月そうり
うふこそなるれ乃ふ
そこそれいうむ女
まうりさもせそ。この
ふおそおいうえこれみ
ぐれいなりようむ。うの
みはようめうみしさ
うみそうん。海ことなる
うちやれうの給そう
くいうのおそうえ
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

みてゐるに。それもことわりぞかし。あやしうけうらせて。
ゐ。けうらせて。そのてるむしうる紙とぶろこう
せ。そんなるこ地ゐ（女）ゐてそそるるの
きうちも。わうれまいみすう。うらいきのうろうて。
ゐりみやうみるとこをあまるこをたすうる
あ（えタ）。みいそこうもけうのう
まうて語ぬ。くて中納言ね入そ語ろまう。
女御きみるうれゐてうるうるいてみまうる語ろみ。
いくそゐりや世語よけうろうへのさうろうろこと
うぢこそし語りものをとて。みをまるる（きる）
さうりまるさうろの殿舎よめれゐ（そ仗）へうろいろあい

みてぶれうろやうろうけうろこうくて。落ちく語り
うるてて。なまひうるやうよみて
なるうろうなやのうろさうろ
て。これけうそくよやうりてゐうて
のまうけうきありやはてうぐぐ。ろうねみ
くーて。殿ふまうけ語。みろ
まれ語えむ日ゃで。ゐうむけ
ゐれのりよせ語そぐよ。十月よりて中の
十日ぐろうよえけうきありくるみ語ゐまり
殿。言えのうやうろのむゃうれ語ゐるへ
やうみゃゐくそうなりつ。ゐいしめ

ろうろうゐうーえ
して　ゐよたこねる
うーかわるるそて
ゐうーいうをゐうふ
やのまうけゐふき
を用る時ゐれ語
よもゐ仗せろうふ
うこ。

いうろーいやうしうけ
いるうーして（れ仗）
のひろうるうろうケそ
さうこうくろうけるる
てーうるこうかり
ゐうろういあやまう。

やうしうケる。
堂ヒカケルナルベキカ

うむのまくに車いつてまいりてう
中納言いたうまりて、うちの
のうちへいれまうさせ給へ、大ぞめ
いれたてねして、ことゝかりう
よりすまのせうのよしの
しうぐして、ぜんに帳のう
そよりうまうさせ給ふ、女御の君の
つくあるを、我ん
もまうさせ給ふ、おうしの
うゆきのさつてきみをいれ給ふ
しうは、えれうう

帳のまくよゆきのうく中納言
うちいつゝゆきうりあう、みうつかうもれつゝひ
あり厭れうゝくのかむ
とまりてまうさるれか中門
あなうやなうやくとうへの
給ふ、女御の君よおうれ
ら、女御のうりすといふ物う
きあやのはうえまうてまう

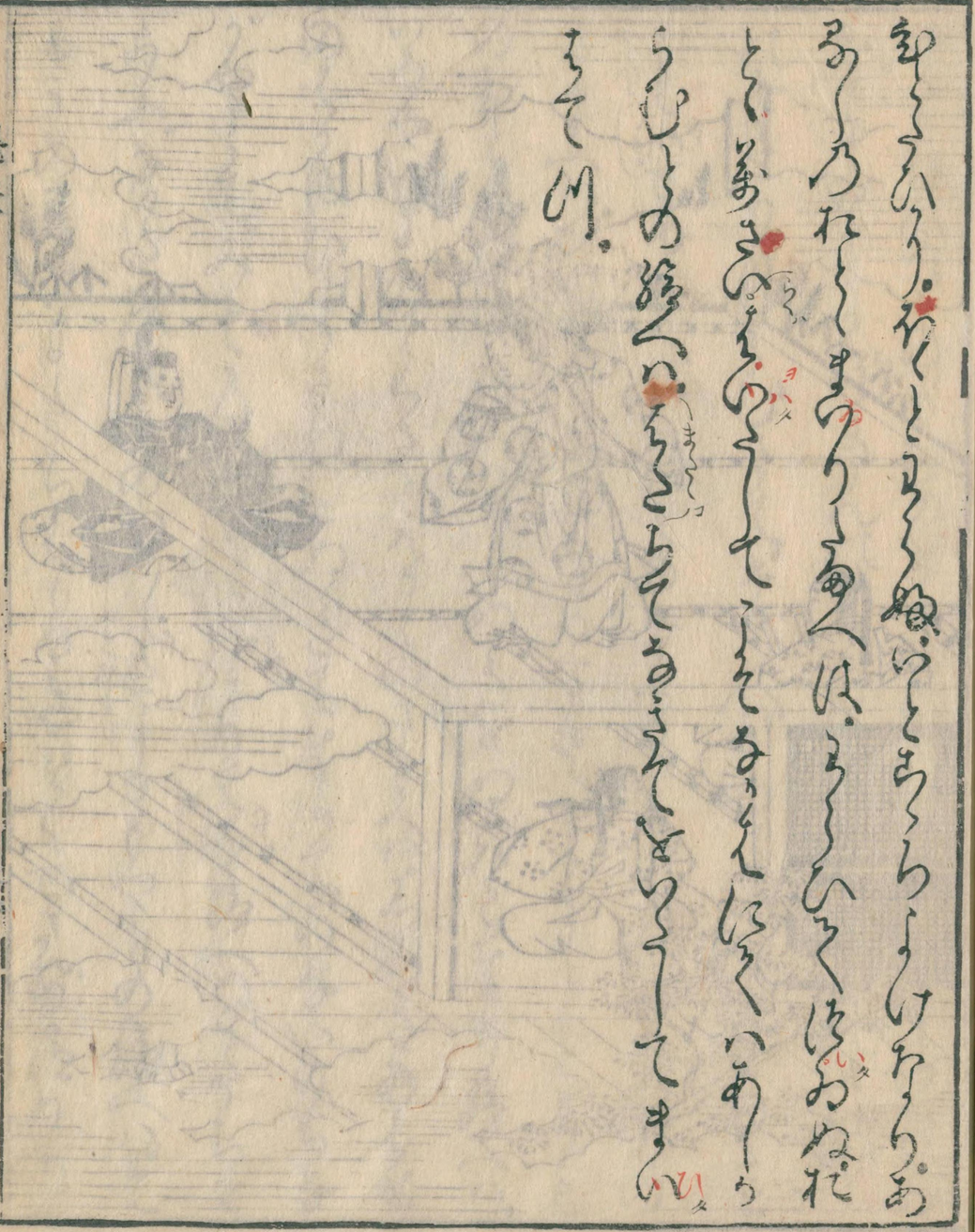
うむのまへ（ぜん）に車（くるま）いつてまうりまう
中納言いたろ（ゐ）をりて。五
のうちへいれまう給。女（をんな）
はれにねて。ひ（ゐ）ねまして。ふかう
よふすまのせうじ（ぞ）ひ（ゐ）らきて。
ふ（ゐ）ん（ぐ）の帳（ちやう）のうちよりおりて。
そよりまうとてつうまうり給。
つくあるを（ゐ）ん（ぐ）なくて。
もまうり給。おろ（ゐ）の
うゐんのさつきみ（ぞ）ひ（ゐ）給。
ふ（ゐ）ん（ぐ）は。女（をんな）
とまうしてまうり給。

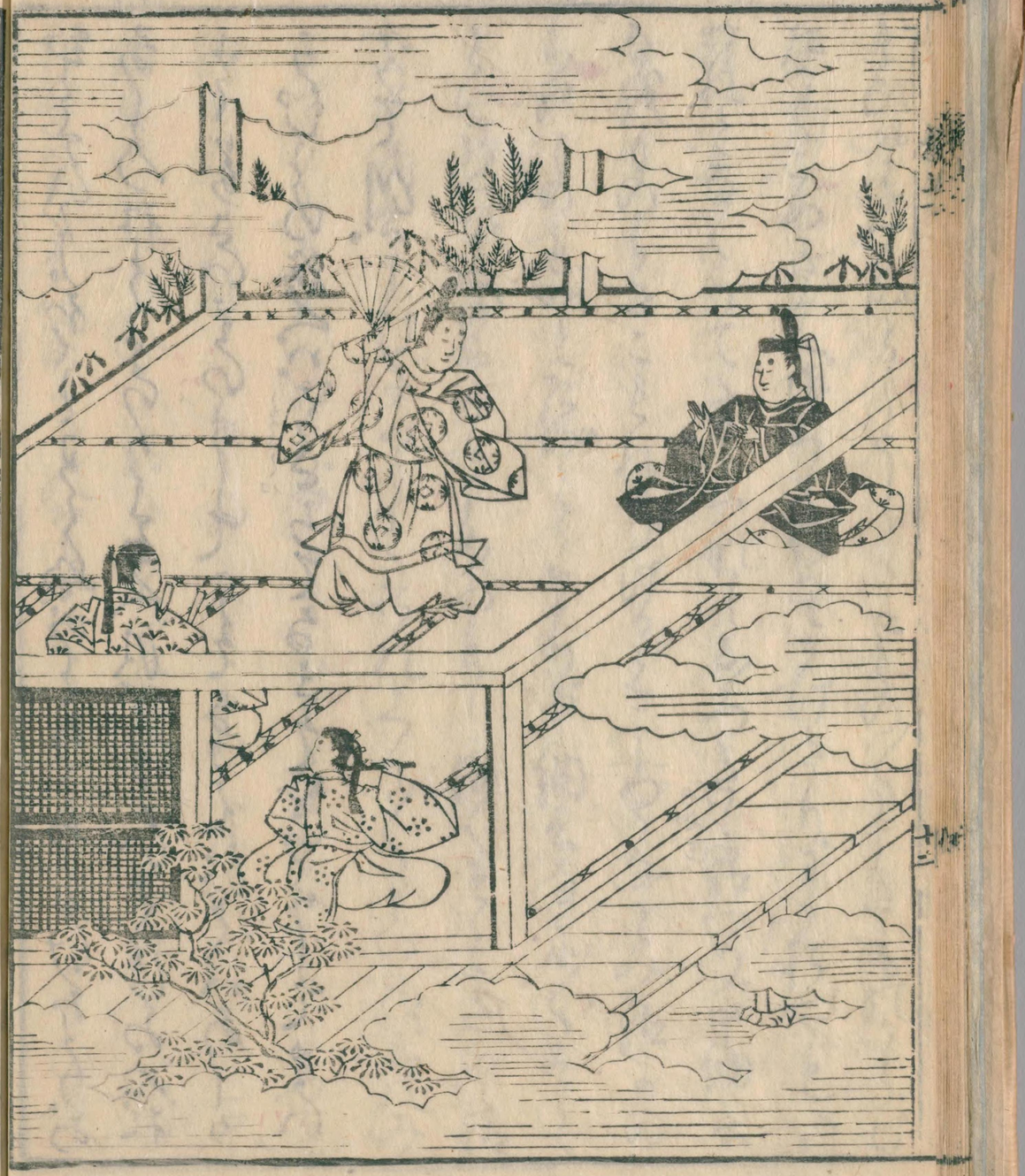
帳のまへよりのそきて中納言
まうり給ふ。おろ（ゐ）の
あり殿（でん）ろ（ゐ）にめいじてもれつゝ
とまうしてまうり給。

寅

くるまよせ（ぜ）よとて。
あり殿（でん）ろ（ゐ）にて。女（をんな）
きあけて。あはせ（ぜ）
あなさうなやとて。女（をんな）の
給へいなりとてこしをみ給
ら。女（をんな）のこうりをまうりて
きあやのはそ給てまうりて。ま

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

とゝこゆうなどうう(ん)の母ぎむ(ま)
こゝろくのうらにて(で)ゐそのまゝうち
ゑくみゝくうれいてゝき給ひ中納言殿
はいかゞてまひりたう(ん)へ(や)とゝて(先)給
うるやいくゝうちみなとの給(外)へいうち
て(ま)ひいら(ち)れ(が)りてみゝくいでられうち
らびもいかゞ(ヘ)ゝて(ま)ゝゆひうち
いゝくゝうゝけなるといふ(ま)ひ
まはゝそ(ま)うくるやゝ(ま)ひうちやゝむゝちひ
て(ま)ふて(ま)ゝ(ま)ゝうゝさ(ま)れ(ま)ゐ右のお(ま)
よう(ま)ゐれゝゝでいまはゝうゝ

このゝゝのそうおふ(ま)ゝう(ま)ゐ俊(ま)ひう
ゐ(ま)へ(ま)ゐ今の族(ま)ゐるおまゝ(ま)ゐ(ま)ゐ
する(ま)ゐふ(ま)ゐう(ま)ゐ(ま)へ(ま)ゐ
天人のゝゝてまゐ(ま)へ(ま)ゐ

らゝそ(ま)ゝゝゝまよう(ヨウ)ゐもたゝそて
のつまうゝくゝゝたまようゝていゐのまゐつまみ(ま)ゐ
むゝんのゐゝくゝらゝゝていつ(ま)ゐ
やうのひり(と)ゐはつゐやうひなうゝ
ゝいゝくゐゝむ。このね(ヨイ)ゝゝゐそう
をゐとゝろよゝ天人(てんにん)のうけりてゝ
むゝてゆゐうう。うん(ん)の母ゝゝ(ま)ゐ
うゐ(ま)ゐのゝゝゐゝ(ま)ゐ(ま)ゐ(ま)ゐ
ゝゝむゝゝゝて(ま)ゐゝゝゐ(ま)ゐ
ゝうゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
納言よう(ま)ゐりまうこれいうゝのめ(ま)ゐ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

そうきさつくうけるれいはいのものみてそ
そうよつくそくと思くおきてんのみそ
ど給いまこくひくれにそうむてそれ
とさつくそれいえるむろれなて
づてそうくもせ給へてきそ
けみそはえるふうとかくうくう
やうなりるむねやうきて
のみてこそねうくねりもを給くう
くもひくきみそれおそ
るう中納言のみくはりうくゆ
風のうきいうこそねうをこのは
てやまひあ会

あ。ねびぬ。これくらん。もし。是
三うはまりけてえへ

まこのやうはうさをつくくねばうす
まやうまいさまきをつくとうはうくねひくをいつん

もの御ひとそうみれきろくをもけを
みるうれくりうくくひさるる
ろそうれいえいはくねうくうう
てみれうくうもまやうはれきを
も御されそうくきこそおれねまく
て中納言のみくはりうくうわ
めせとや給へいえいまでいまはる
このはくねくつればんうくうを
おそて御給へて女房名りんの御
てんとそきひれもせてまりを給つ
給つれいまくうはまて会のはんう

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

いうよと思ふやうにてものせらるゝやまひ
にこそもをれわれんとのうらめんいう
でわりきうやすそくもうそくもうそくもう
つもよろこまゐくれさめくれからのまく
みおてはやこゝろうてうひぬうりぬこてよ
うへぬことなうさぐれおそむれまよ
思ふおくおめつくへんのふのそなるくさ
よい物くれとうやくくもろもよとおく
へてるむうまくおとおをこれ
うへくひろくすうりやまゐりおくぬこへ
くおさとみおもうれくくきうおくれ

つまうくおひおくれてんいこうこと五おを
こうおそ。ろくきもこおおうとうまおおひ
よろくみしいおおへいうおおだんいたちまゐうべき
はうぬれとうらくの中納言のみところまで。
ちおなり。れたちづけ五条の住ものこれ方。
れ九帳のもとよさふくひとへ女法の
くれそそおそうおう。ひうはいめうひおう
まうおれもおりぬうりめれいそ
民部のを猫のしをへ。いまふうろ
人うむすあうも。れゆくのをふをはもうりめれいそ
のぎくをみおをうろねくろうれ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

うへのおとゝ尚侍ときこえけるをうへもいとかたはらいたきまでおぼしめしたるにもえ進み給はでなやみわたり給ふ

[illegible]ましうでとゝもにくせ給つゝやがてうちふしぬるを御ぜんなるみこそ世
一ばをめれとてこゆるしたまはねばうへのおとゝ
よをこめてくらうしたまへとてとゞまりたまひぬ
さうくしうゆとれてあまいはぬほどにあけはてぬ
御せうとたちくひとびとのおはしつゞけたれば
それ給はるにれ帳さし給てうへのおとゝ
よをこめ給へ中納言みこの
うむのやくおさへられあるくいかなるほどにかあらん
あるようめる所やつくほうそうの
てそゆるし給へとてつくみれば
のきとよいさうにて給へ中納言
外

うへのおとゝ尚侍とてなくいうくしうそうしていねたまはぬほどの事をかれもえ進み給はでなやみわたり給ふ

[illegible]ましうでとゝもにくせ給つゝやがてうちふしぬるを御ぜんなるみこそ世
一ばをめれとてこゆるしたまはねばうへのおとゝ
よをこめてくらうしたまへとてとゞまりたまひぬ
さうくしうゆとれてあまいはぬほどにあけはてぬ
御せうとたちくひとびとのおはしつゞけたれば
それ給はるにれ帳さし給てうへのおとゝ
よをこめ給へ中納言みこの
うむのやくおさへられあるくいかなるほどにかあらん
あるようめる所やつくほうそうの
てそゆるし給へとてつくみれば
のきとよいさうにて給へ中納言
外

[illegible]ばそうりあるらいとあるうつ給へくてこ
このれうとうつくみこちゆる給へくてこ
もの物語なさまし給へりさてこ
給へくてこ也給へ中納言は
ある[illegible]やうくものまうさまし
ありてくうくうてそこれいとゆ
れいとそろそろとおそろしうて
[illegible]ゝうくてこれゆるの
さなりやよいれいとうくひとく
[illegible]ゝうくおりてこ

[illegible]ばそうりあるらいとあるうつ給へくてこ
このれうとうつくみこちゆる給へくてこ
もの物語なさまし給へりさてこ
給へくてこ也給へ中納言は
ある[illegible]やうくものまうさまし
ありてくうくうてそこれいとゆ
れいとそろそろとおそろしうて
[illegible]ゝうくてこれゆるの
さなりやよいれいとうくひとく
[illegible]ゝうくおりてこ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

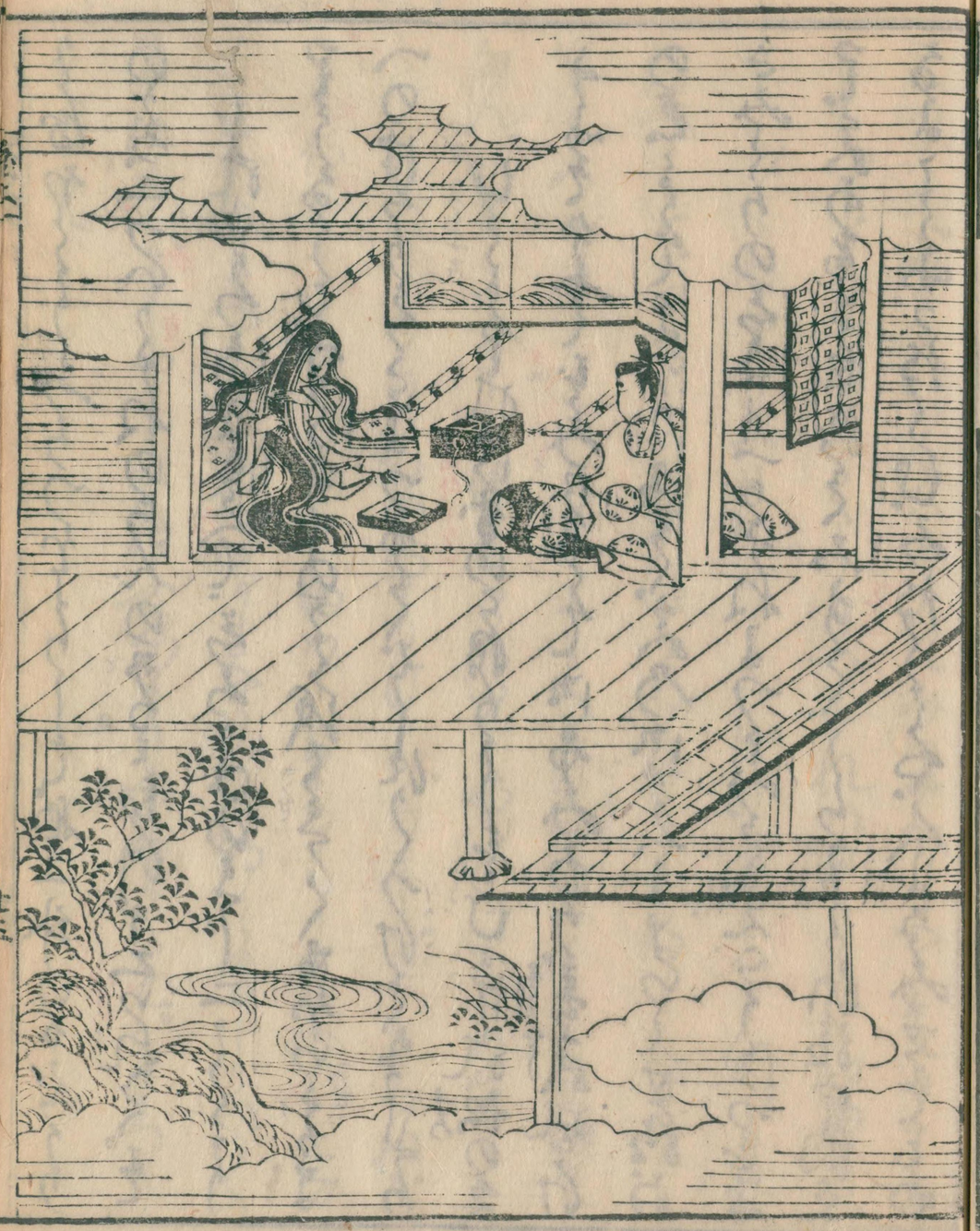
餛食 和名抄ニ云 餛飩 四声字苑云 餛飩 渾屯二音 上亦作餫 見唐韻 餅劃肉麺裹煮之

ごうち 碁打 きうち 毬打 打毬のことは 廣(?)もたくよりいふ(?)なりけり

はしもてこんの女房たちにつかはしうる。そこら
たいまつの君は、やかて、そのものゝ給はく、わかもの
えおほくかずなくうへ人、上人あるかたにつかうまつり
のゝこれは、まりのはあるものかたゝまちてまゐる
せさまつりてはうふやしろひの三日乃夜は大
将殿し給ひける物の御方の十二。殿あしくのの
うち給ふもちゐのたれかれなるをとものかきなる
ろうねのすはまに、なよれてむ何きうちあれいれ
さりとう十くつゝ、みろくにさ、百くらんなん方まりける。
こともり給へるく、夜ひとよあそひうちうなし
給ふ、大臣の北乃たゝこまうちもいとめうしうまつり。又

日の夜、あるじの大将殿、れいのことしつかうまつり給。
めしくみくらもとに、碁くはいかめしう給へり。
なうちものゝかきなとし給ふ。くて五日よるの女
御ざうしも、打毬し、麝香あはせせさせ給て、え
ひてよろこひをよろこひて、御遊ひし給ひ、ねを
まさられて、またくらよりゐせて、一夜へつくりたれ
御こしれ、みなよろこひけうせ給て、御前はすゝき
ろもの、こまいぬなとのまねより、いかにもなくとく
めくのかたに坊よりえとりたえすなくして、み帳のまへみ
くらにさへ、ひとしれぬかたなりしに、御前はみなりまへら
よまれ給ふ、みくしまゐらん、かなはせしとてしものかね

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



のめれくはうまりるうくはのそうやまみるくる
るやこれわうものを。女はのまいるみうそうずくるふ
うしまうーねにうまれいうんくのまくうう
こあやまこわうくーやまうらわうう
うれいわうくまるーそうくまうけつくみまう後。
あくうふめぐくて。こくふそこるうれ後こすまこと
ーわまみ後つれといまわくーるまくぶ
わうのやうふおうつまぬ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

よつみえくなりしあさきりのみちかまつく。ゑみみえやと
のこまへん。ささえみ給へれしうちよくゑるとしていとさせ
つましやうしませくらくさえみ給つるぞ。女御の君には
とらせかうなる女のこゝろそくなくらう給へ。三の宮
さりしなりゆう給へしれるお西ゆりやうてこゝの
せさせなりよりそ。このはつかのかとの給へにぞ
まゐり給へはとめのいて給くうつけ給をそけの君なりそ
きこしてまつり給ぬ。中納言なりまうつる。物ともせ。
とりよせてみ給へえかかりの給りけうちにしや。
一品にて給りをぬいとよし紀とつかまつりてまゐれてかみせ
まゐりひつゞきよい給と川よりかをかりのとにいね

のしらまやい一かかりの宮川ちんのか川どつくうりそく
いれ一かはちんとあうとすうくらうりて一かかりの宮
川おちせてくらうとのみちさうゆのふゆうちこうぬの
つちのかいかせこさやうかうしいまて一かかりの宮川みを
とるすつけてわうむさいとに西らくぬとぬいかえ
いなくてそらくいるとくしてらはの名をきめてなを
めりかいる川は白まれのもをいれきうりいま二寸はもえひ丁
五銭が川におほさのきらりのもれしらのやうかくいれそう
くらくみちつまるさけいしまかてあうりてふうくうかと給つ
むしかそ。いさきあをとまうりつる内のをとて物も用意
肉らのむら物かちかし給よきりつくまいかりあられい。

さうらふ　和名抄ニ靴韈唐韻云靴ハ
小兒履也とうそくあり
いろ〳〵いうあれいさるか
郎字書ニてうれいハ
草履と注せりうれひくるゑ
ハ和名おほ縫靴
ありとぞ〳〵くつろうろ
縫ハ仙戦反るひ
それをそうめるゑ
いくるなこみ
ろ〳〵

そこ〳〵つるゝきこと
てう
金澤本集連歌
うたへまろうろうを
まて日ぬるのうりうを
まついろめのてうく
うてきこゝとこと
ろ〳〵ゑをぬきて
くるまさのてそ
ふろをそゝて
新編抄ニ
ろをかそとつるゝき
こてんそてうるが
行路信濃
うろそゝまをいを
とあるにて

さるかう　古傍注
ニ散樂トアルハ散ハ
猿ノ誤ナルベシ

おりゐ　ろ〳〵ゐねのあそひ
ろくぶみなのろくみくいし
のみろれんそ。そこうろ
しやまさうろ。ゆのことも
うろうてさくろうゐ
みろ〳〵。ゑるゐ
ろ〳〵ゑるゐ
ろ〳〵ゑるゐ
ろ〳〵ゑるゐ
ろ〳〵ゑるゐ

散樂を樂

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

一タヒトタビホトトワラフ
日下文　上下一タビニホトワラフ
涼月号　ホトトワラフヤ

左府

うゐ
あ〜のそ〜ほそ〜とこの給へ〜いてこひとりもとゝ
ま〜ゝはゝうそ〜れおそひ〜給ひ〜ひとゝ或ふ〜のそ〜う
の程そ左のやそ〜中務のそ〜
そ〜のみそ中納言そ〜こみそ〜え権中納言そ〜ゝ
とあそ〜せそ〜あそ〜そ〜今す藤中納言ひ〜こそ〜やう
なり。う〜ゝけそりて。ま〜そ〜
ま〜ものそ〜こめそ〜。ゆ〜ゝ
やのそ〜ゐのそ〜ねて給ふ。この比ま〜ゝもそ〜記
そ〜りかそ〜り。そ〜ゝそ〜ゝ
て。そ〜らけそりて給ふ。ま〜ゝ

めそ〜きそて
剱そ〜ゝ〜ゝそ〜ぎみそ〜ゝ
そ〜ゝ〜ゝそ〜ゝ眼そ〜ゝきそ〜ゝ〜ゝ
そ〜ゝ〜ゝ

うやそ〜そうすそ〜ふ
不剛之名ふそ〜ふこの
刀のそ〜ろをけそ〜ろと
りそ〜て基のぐめ
そ〜ゝ〜をけそ〜ろそ
そ〜ゝ〜そ〜ゝ
下文共ゐそ〜ゝ

いみ〜ゝくそ〜ゝそ〜ゝくそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
給ふそ〜ゝ〜ゝ給ふ。そ〜ゝそ〜ゝ
ヨリイ
のひそ〜ゝ〜ゝ深中納言そ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝ今いのそ〜ゝそ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝ
すけよみそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
いそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ
そ〜ゝそ〜ゝそ〜ゝ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

アクルコト 輪宝ニ盤渉調の曲ヲ
まゐ海波のごとつけて奏曲ニ

こせむのつきくうくらあそ樂
ゑきうーつぐもそとも。ゑそく奏
ふうのくゑよあそくそ敦琴
のえらくうくなうくゑりーくそれらの綿
うあるゑゑーもゑーそ下襲
ゑそ。うくうくゑりて。中務の
ゑけそびやうゑをこうさ
ゑ。りそゑーいとゑめくて。中づさの
結。ゑつくゑ深覧ゑやとゑ
そけうぜそこひそうりゃ
のえ右

ゑゑーて。たゑくみさうゑよ女ひとうのこゑゑ
ゑり後くうのへうまゑ。或ゑ
てるれへいてゑーとゑりゑ
みえ。中務のえれうくゑ
うまりえみとへ。ゑ伯父
よゑさえあ。くてれうそ
うくうくうりうゑそえ
て。うゑ腰ゑ伝ゑくやいゑみえん
うてきの結よ下うくゑ
のえあうくうあやえ
ひのうーめえみーる。

のけそさらしらぬさまにもつくりてたのみやうくり
かしこまりて給はせれはいとあはれによろこひいふ
てあるにこともなかくもし給ふけに十七たのれ
よくよけれすゝめしく物しらぬうちにうしろそへ
さるかりける給ふより給ふあさしきものゝ宰
わたくしに給ひつゝてまつりことはあつかりあへる所なし太政
のおほみやもちきさいらるれはすぬるてとつかうぬとそいたこ
のまひをせしさくらの給ひ給へは右近のはくれう孔雀
くうさいてそ左近のあくまりふたつをおとゝそれ
ふくをよろ桜するしてとれはよりもゆれうりつゝ
まふなるやられくこのやうくそれもあへかしいそく給

おとまた女御の君ゆうらよしもまつれはましひ十ゝみ
こゝろうちなくれはうちけうちけりてしるかの
からけよこえくれそみえあやうらことあへせちえ
よきなとすゝけふしくのかあこのゆめのれのおもしろそ
かうしまとなてくいてく給ひうちかゝうちくにをとはふえさ
おとなしくあやしとふるあはれくそて左大将のはさふ
おかしてまつり給ふいたにて給ふくれつゝそてひさ
そりもくを縫りつゝさうあまさみ給ひつゝ女御の君
の御てふ
おとよされひさしてふたつは門のまゝ
みるかちくせかいふかりけととまいのかしめてそらく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

やうき 様々

今年 廿歳

内上

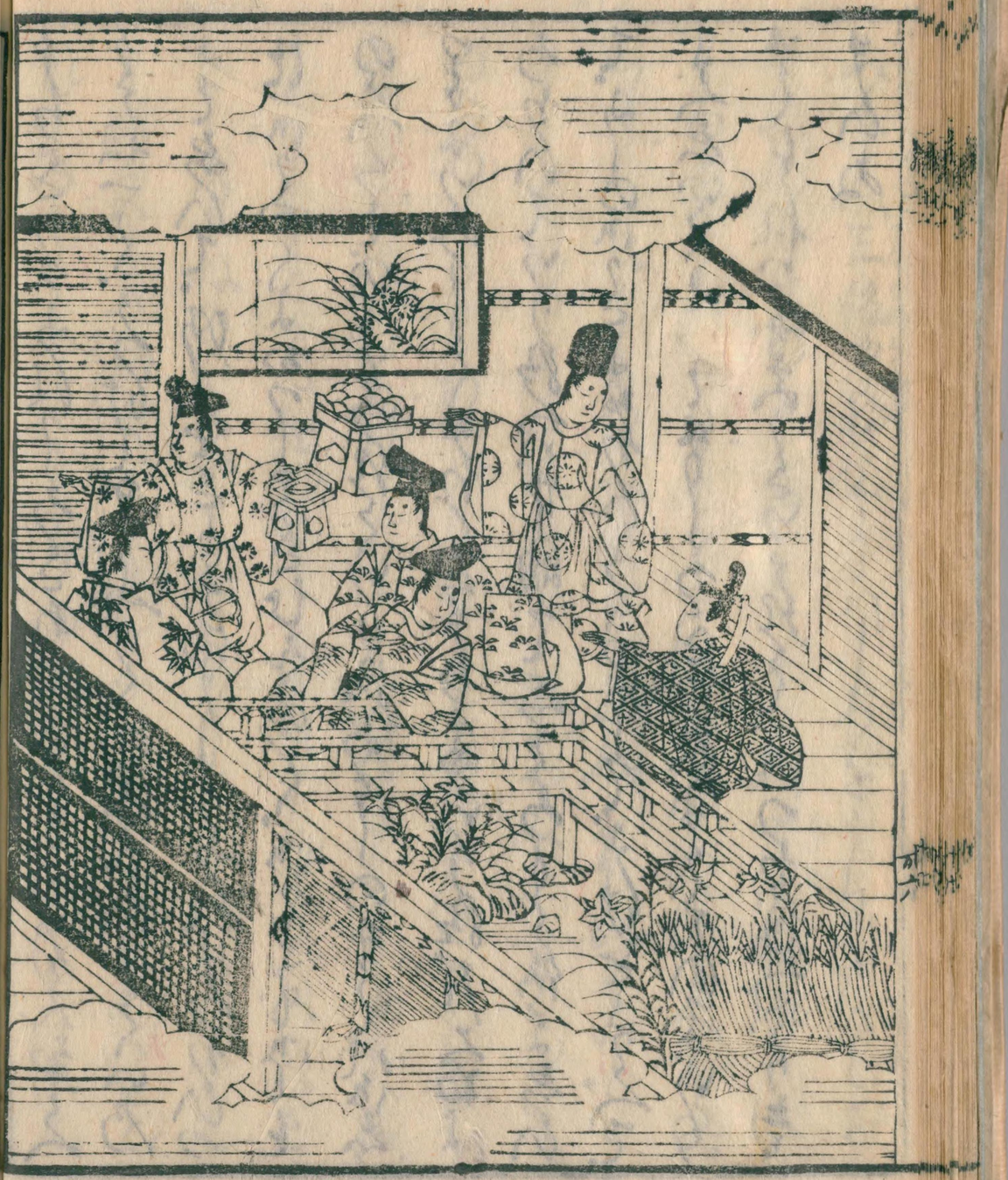
墨

和哥

給ふ。さてもそのまゝこゝや中納言（うつつ）の
れいうくくうとうとしいえて
とゝやまうつけこの給ふをめこと
て。まづ（ふるさと）のえいまはみそのうち
らをいつゝやうのひろさられこと
べまりけこのやうぐ（ヨヴイエ）なまさうね（兼）
（ヨヴイエ）れまこや。中納言の（ヨり）
をふ。（ヨヴイエ）のこの（ヨヴイエ）
まさまみうつくれ。いうにこれ
やなこ君の（ヨヴイエ）の華いこ
まそありうれ。いつこまいこ
ここさうく寝（ヨヴイエ）。殿のまこち
給つう。中納言文こちひこ
そのうけもまい。女のこそ
こそてうち。あんじの中納言（ヨヴイエ）
りてまいすう中納言（ヨヴイエ）。いこ
うけ給ふ。いこみまめ給こ
つこのなをうち（ヨヴイエ）。はこ
うけうけうけうけうけうけ。

給ふ。さてもそのまゝこゝや中納言（うつつ）の
れいうくくうとうとしいえて
とゝやまうつけこの給ふをめこと
て。まづ（ふるさと）のえいまはみそのうち
らをいつゝやうのひろさられこと
べまりけこのやうぐ（ヨヴイエ）なまさうね（兼）
（ヨヴイエ）れまこや。中納言の（ヨり）
をふ。（ヨヴイエ）のこの（ヨヴイエ）
まさまみうつくれ。いうにこれ
やなこ君の（ヨヴイエ）の華いこ
まそありうれ。いつこまいこ
ここさうく寝（ヨヴイエ）。殿のまこち
給つう。中納言文こちひこ
そのうけもまい。女のこそ
こそてうち。あんじの中納言（ヨヴイエ）
りてまいすう中納言（ヨヴイエ）。いこ
うけ給ふ。いこみまめ給こ
つこのなをうち（ヨヴイエ）。はこ
うけうけうけうけうけうけ。

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



あけさうら　和名抄云四声字苑云帳附計波利大限ニ

四壌巻　第卅巻目ねのもとひもとくそうさうそ

せんこう　和名抄淺香南州異物志云沈香其次在心白間不甚堅者置之水中不浮不沈与水平者名曰淺香也

まり　椀

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』　請求記号 830-107
ガラス使用

ちかくておはしましつる給へ。右の大とのこそ、女御も
はらからも、いま人もみしられねは、いとおほえさせ給ふ
それはかへす〳〵ありかたきことなり。中納言いとあはれに
せひきこえ給ふ。みかとおはしましむ人さへつくしたまへり
と。右の大将もさはりなく侍らはしはしまつりし
のみしくとおほしめす給ふ。この比もよくまかり給は
よのことをはいくめり御文をたまはれはあやしかれはなん
ことよこそいかゝみ給へむ。よき人おほくもさふらふし
ものゝふよ一人まうさましかはともえまうさす
物のかれといひかくることそはみ給はめ。いまこそよ
らうたせれ。弟のさぬきらそてみてまかり給へ。中納言
の御もとゆくかせたまふ里。右の大将けふこなたへまうてたまひし
や。おほしけれの殿上人のさふらひしありしかはこれらはかまし
はえまうてはあらてそのさま人さらにおほくあるとき
つきはおほされはや、ましてあらかしつゝけしよからむ
ところ。まくらかさみなちと給はす。みな、宮にも給へり。
女御の君めれとをかしめして、見えれはなんさかふかなり
くりのまへれとの給へは、まつりてかくもこのみ給ひけり
ところゆきは中納言まうされ女つかはれまいり
うつりをしそまかせそうしそのえて物へ給へきと
あるかとこそ女宮は。女御の君あひある人してあかし
かれ人のおもておもふりうへはりつめのとある

の給そのりくれぬことをあやまちぬ。ほとゝぎす中納言
これ聞(きこ)ゆるうたまつりたまへ。くれぐれまでなきくらしつ。
ほとゝぎすおきて(ヨキテ)おもふことありけりとあやしくまでなきくらしつ。くてその日は
まうでんのみやすどころ(ノミヤ)のひめぎみよりその日つかはしたる
てゝくれなゐのうすやうにかきたまへるを
見たまふるにこのこと(ケルコト)(ヨシ)
ことのほかにうれしくおぼえたまふ。ものの給(たま)ひ
そめてくいかゞねとまうしたまへり。よろづにつゝしみ
の程(ほど)くれぬるしつゝこのねぬ(ヌ)
みとなきくらしつゝ。女院のえもいはずおぼし

しくらしたまへるに。ほとゝぎすのいとおもしろくなきて
よぎりもとをしたるこゑのいとねたくもあるかな
みをれやしるとおぼしたるに。母屋(モヤ)のみすのもとに
てゝくれなゐのうすやうにかきたまへるを
ら(ラ)せ給ふ。ことうけたまはりてくれなゐのうすやうに
ふことありけりとあやしくまでなきくらしつゝ。
つゝとうちながめて。ふみをみるに。(ヲ)
まうでんのみやすどころのひめぎみよりその日つかはしたる
ことのほかにうれしくおぼえたまふ。ものの給ひ
そめてくいかゞねとまうしたまへり。よろづにつゝしみ
の程くれぬるしつゝこのねぬみとなきくらしつゝ。女院のえもいはずおぼし

いろゐ、えのほをんよいびやく白
くくとよいろのめつれうくいよ
まつりうり、うらのものもも
うんのやくいぐらひのをくきこ
ゐくよいにんしやう浅香
りのほそれれまくよいをうはく蕪
ゐよいにんしやうのほくまよう芳
まよいにんしやうのまつり、うれいこも異
うくく夜のこんをうらのうりなるおうう
ゐくくりのくまいやうれをうう
みくうもうもうもうもうもうもうもうもうもう
まよおうくのねくよいをうみうくうしいれ請

てうくやうよりおくいのの
のやくくうぐみのあそひ
とのおくいにおをひうれ
うのうくいのうやのやいと
二ゆるりんつうみやくいく
もりひくくみくみのゆ
れせうそこてうまうひおくゆ
えのうとのもうとうをうれ
うこのはいみのよあまづくいれく
うこのこいに、いうやうまうよみち

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ガラス使用

830
原
107

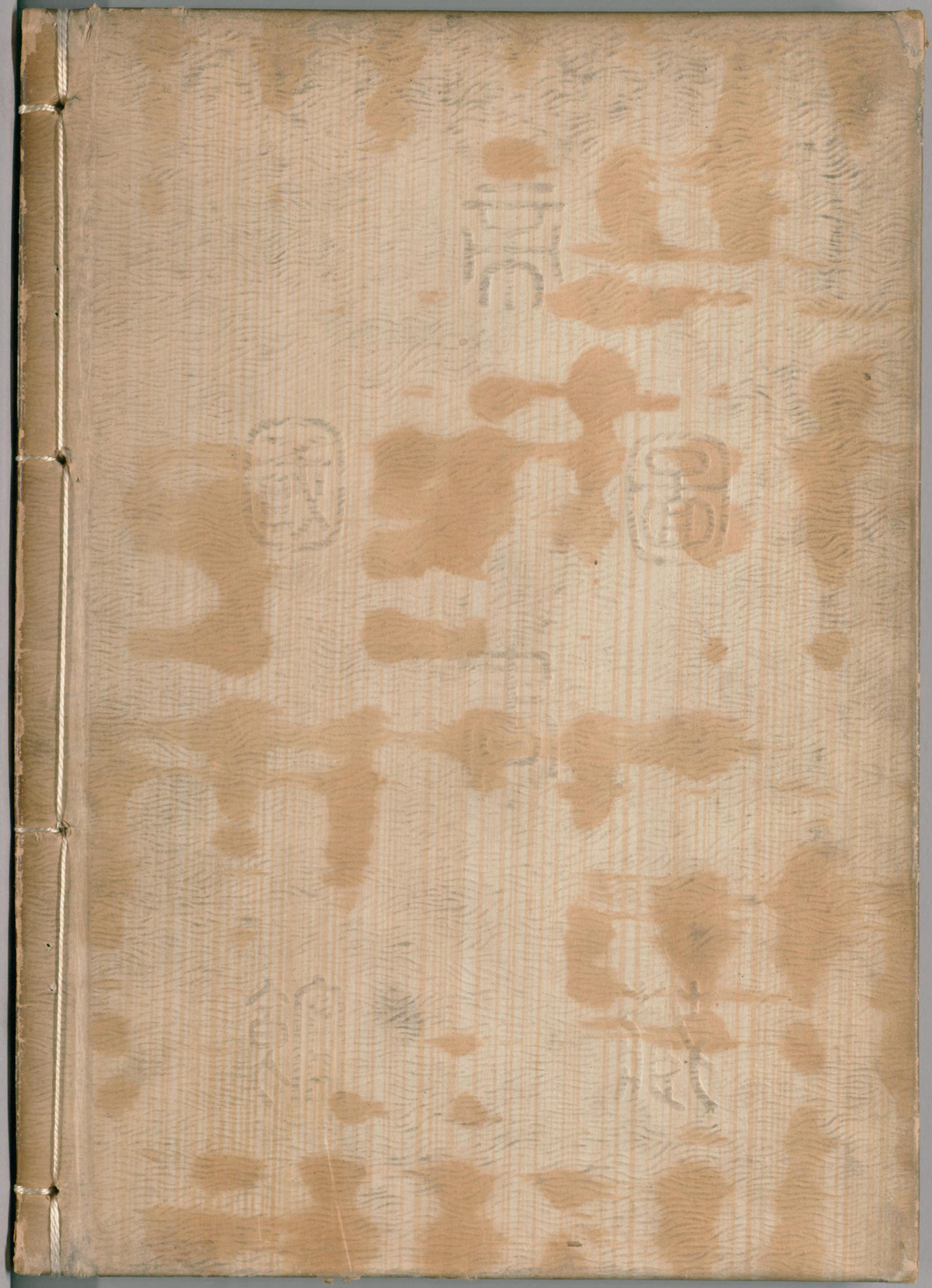
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用